北杜市立中学校再編整備検討委員会（第３回会議）　会議録

１．　会議名：北杜市立中学校再編整備検討委員会（第３回会議）

２．　日　時：令和５年１月２０日（金）午後７時００分～

３．　場　所：北杜市役所　北館３階　大会議室

４．　出席者：

（委　員）森本貴代美・名取政義・清水好美・・植松耕三・牛田昭一桜井彰一・
進藤幸夫・小池雅美・保坂一・白倉美奈子・日向五十鈴・小林明・輿水清司

（事務局）加藤教育部長・平井参事・川端下政策推進課長・鷹左右教育総務課長・
進藤教育指導監・仲山行政改革担当・浅川総務担当・大久保総務担当

５．　議事

（１）前回の振り返り
（２）垂直統合を基本とした場合の生徒数、学級数、教員数の状況
（３）水平統合を基本とした場合の校数別の生徒数、学級数、教員数の状況
（４）水平統合を基本とした場合の通学距離イメージについて
（５）その他

６．公開・非公開の別：公開

７．傍聴人の数：６人

議　題

（１）前回の振り返り

（ご意見等は特になし）

（２）垂直統合を基本とした場合の生徒数、学級数、教員数の状況

（委員長）　事務局から説明がありました。ご質問等ありますでしょうか。

（委　員）　直接、統合に関連する質問ではありませんが、県のはぐくみプランについて、市ではどのような適用になるのでしょうか。

（事務局）　はぐくみプランは、山梨県が実施している少人数学級編成を進める施策です。国の制度では、１学級 40 名が基本となりますが、山梨県では、それよりも少ない人数で学級編成できるようになっています。
現在、小学校低学年で 25 人学級の導入が進められていますが、これが適用されるのは１学年の児童数が 71 名を超えた時であり、それまでは１学級 35 名が基本となります。つまり、35 名を超える学級が２クラス以上にならないと適用されない制度設計になっているということです。
中学校の場合は 35 人学級です。小学校と同様の考え方で、１学年 36 名になっても 2 学級にはなりません。ただし、0.5 人の教員の加配があります。そして、１学年 71 名を超えると３クラスになり 1.5 人の教員の加配となります。北杜市のように単級の場合、はぐくみプランの恩恵は受けにくく、令和 16 年度をみると、北杜市では適用がないと考えられます。

（委員長）　それでは、資料２の垂直統合を基本にした場合についてご意見があればお願いします。
垂直統合は、学校としての規模が大きくなりますが、学年の規模は増えないという特徴があります。答申では、学校間で交流する機会を増やしたり、ICT を活用した授業や活動を取り入れたりすることによって、学年の規模が小さいことの課題を改善するという考え方が示されていますが、このことについてはいかがでしょうか。

（委　員）　ICT を活用した教育の実態ということで、武川小では、コロナ禍の対応で 27 名学級を半分に分けて授業を行いました。片方の教室には担任の先生、もう片方には補助の先生に入ってもらいました。画面越しで、説明も意見交換もできるのですが、３～４日たつと集中力が落ちてしまうという実態がありました。同じクラスの中で同じ空気を吸って、人の様子がわかるという環境でないとなかなか集中力が保てないのでは、と思いました。ICT 活用は、多様性や個別学習といった利点も多いのですが、やはり中学生のような思春期には、同じ空間での人間交流が必要で、画面越しの授業は、欠点が目立ったというのが私の感想です。

（委　員）　私は、学習指導員の立場で小学校の現場に入らせていただいています。ICT については、現場の先生方の意見としてもスキルの差があるということがあります。ICT を使いこなせるがどうか、扱う先生の資質も ICT の浸透に大きく影響してくるのではないかと思います。

（委員長）　ICT も始まったばかりであり、現場では苦労もあるというご意見ですね。今のお話は授業のことについてでしたが、中学校では授業ではない普段の人間関係の問題も出ていて、それを ICT で解決できるのかという課題もあると思っています。

（委　員）　私は、昨年度審議会にも参加していました。審議会では、学級数が１つでかつ少人数であるという課題の解決策の１つが ICT だということが言われており、私も将来的に本当にそうなるとよいと思いました。
昨年度より ICT は急速に進んでいて、現場は大変です。一方で、スキルや Wi-Fi 環境の問題は、中長期的には解決していくと思います。
一方で、そういうことが当たり前になればなるほど、ICT がすべての課題の解決策になるのかということについては疑問です。実際にやってみて思うことは、はじめは目新しくて集中するものの、慣れてくると集中が続かなくなります。ICT で、他の学校の先生の授業を受けられるということはできますが、子ども達が集中して授業を受けられるのかという問題が出てきます。また、やりとりをするということについても、オンラインの授業で子ども達が意見を言えるのかという問題があります。皆さんもオンライン会議の経験があるかと思いますが、大人でも言いづらさがあると思います。また、今日みたいな場でも、私達は会議の前後の時間に雑談をすると思いますが、ICT ではこれができません。子ども達が、雑談する機会がなく関係を深めにくいという問題が出てくると思います。
先日、県立大学の先生にお話を伺う機会がありました。コロナ禍で授業がオンラインになってから３年がたった今、大学生たちは孤独を非常に感じていて、友人ができない、人間関係を築けない一番の原因にオンライン授業をあげているそうです。パソコンがあればなんでも解決できるのかと思っていたが、そうでは無かったということが明らかになってきたのではないかと思います。

（委員長）　ICT のすばらしさもあるが、ICT が進むほど、対面での経験の重要性が高まっていくのではないかということでした。
教員のことについてもご意見をお聞かせください。答申では、小学校・中学校を統合することによって教員数が少ないことの課題を改善するという考え方が示されていますが、このことについてはいかがでしょうか。
例えば、中学校に必要な教科の教員が配置できていないところに小学校の

先生が加わることで改善するということがあると思います。

（委　員）　小中一貫校に勤務したことはないので、正確なことはわかりませんが、中一ギャップを解消するという点では良いと思います。また、小学校５～６年生が中学校の先生の専門的な授業を受けられることは意味があると思います。
一方で、実際にやるとなると、例えば高根中と高根東西小は 10 キロ以上離れているので、先生の移動が大変です。また、ただ授業を行うだけでは、児童理解が追い付いておらず、きめ細かい指導にはなりにくいのではないでしょうか。

（委　員）　垂直統合の施設は、小・中が一緒のイメージでいましたが、違うのでしょうか。

（委員長）　垂直統合には、小中の施設が一緒の場合もそうでない場合もあります。北杜市がどのパターンになるかは決まっていないのですが、今のお話は、現状の施設をつかって垂直統合した場合ということかと思います。
施設が違うという課題の他にも、授業時間が違うという課題もあります。

（委　員）　小学校は学級担任制、中学校は教科担任制ということで、先生方のすみ分けというのはどうなのでしょうか。

（委員長）　例えば、中学校でこの教科の先生がいない、という場合に小学校の先生にお願いするということが考えられますが、免許を持っていなければ対応できません。当然、そういった制限は生じます。また、小学校の先生も空き時間がそんなにあるわけではないので、実際にやろうとすると課題が多い状況です。授業以外の交流はもちろん考えられますが、教科の先生がいない、という課題に対する解決策としては効果が限定的かもしれません。

（委　員）　免許についてですが、小学校と中学校では免許が違います。小学校の先生は中学校の免許を持っている方が多いですが、中学校の先生は小学校の免許を持っている方は少ないと思います。
垂直統合の学校のことを考えると、例えば小・中合わせて 15 名の先生がいたとしても、免許の問題、時間割が小学校 45 分・中学校 50 分と違う問題、年間の履修時間が違う問題があり、小・中の先生が連携して教えていくということを具体的にイメージしてみると色々と難しさがあると思いました。近年、小学校でも教科担任制を導入するという流れもあり、良いことだと思っていますが、免許を持った先生をどれだけ確保できるのかという点でみると、現実的には難しさがあると思います。

（委　員）　先ほどのご意見を聞いて、垂直統合の場合、異学年の交流や地域のつながり、多様な意見を聞いて刺激を受けてというところは良いと思いますが、先生の交流は限られた時間でしかできない可能性が高く、家庭環境や性格を理解してきめ細やかに対応するのは、現実的には難しいと思いました。

（委員長）　小規模校の大きな課題として希望する部活に入れないということがあります。答申では、合同部活動によって選択肢を増やすことで改善するという考え方が示されていますが、このことについてはいかがでしょうか。

（委　員）　高根中学校は、北杜市の中では一番大きい中学校ですが、現在、３つの部活動が合同で行われています。月～金曜日は部員数人で活動し、土曜日または日曜日に合同で行うということになっています。平日にバスやタクシーを使って他校から毎日来てもらうのは不可能です。
また、来年度の高根中の新入生は北杜市内の他学区から、10 数名が部活動やクラス分けがある学校に行きたいという理由で入ってきます。保護者も生徒も、月曜日から土曜日までの部活がきちんとできるということを考えて高根中を選択するという方が増えていると感じています。

（３）水平統合を基本とした場合の校数別の生徒数、学級数、教員数の状況

（委員長）　事務局から説明がありました。ご質問等ありますでしょうか。

（委　員）　水平統合２校・水平統合３校は目安だとは思いますが、配置されている学校の内訳はどのようになっているのでしょうか。

（委員長）　これについてはあくまでも例ということで、仮の組み合わせということでお願いできればと思います。
水平統合の課題としては、小規模校の良さが失われるということが考えられますが、そのようなことについてはいかがでしょうか。例えば、少人数指導でなくなる、個に応じた指導がしにくくなる、一人ひとりが活躍する場がつくりにくくなる等の課題があると思います。

（委　員）　甲陵中学校は１クラス 40 人ですが、先ほどのはぐくみプランや、高校とつながっていることで、そちらの先生に来ていただいて、40 人を２つに分けて授業をすることが可能になっています。分けることで、当然、先生にも生徒にもメリットがあると思います。先生は一人一人に目が届く、子どもたちは集中力できる等、授業を少人数で受けることは、学習において大きなメリットがあります。
垂直統合の場合、北杜市の多くの中学校は単級になります。単級しかない学校は、はぐくみプランの恩恵が受けにくいということがあります。水平統合で、ある程度規模が大きくなってくると、はぐくみプランが適用され

て、学級が増える可能性があります。統合することによって１学級の人数が減っていくというメリットもあると思います。学校全体の規模と１学級に何人いるのかとういうのは別に考える必要があると思います。県は、小学校低学年の 25 人学級を段階的に上の学年に拡大していこうとしています。そうなった時に、ある程度まとまった人数が学年にいれば、将来的にはぐくみプランの恩恵が受けられるということが出てくると思います。

（委員長）　少人数指導については、教科の特性もあると思います。なんでも人数が少ない方が良いわけではなく、音楽の授業ではある程度の人数がいた方が良いと思いますし、英語の授業では少ない方が指導しやすいということもあると思います。
学校がある程度の規模になると、教員の複数配置ができ、教科の特性によって授業を組むことができる良さがあると思います。
また、現在、市から補助教員が配置されていますが、統合することによって市の教員を集中できるという良さも出てくるかと思います。

（委　員）　資料３の学級の生徒数を見る限り、水平統合であっても、それほど致命的に少人数教育が阻害されるようには感じません。

（委員長）　そのように感じられる方もいらっしゃるということですね。

（委　員）　中学校の場合、学級数がある程度増えると教科担任の先生が増えます。高根中で言うと、２年生と３年生ははぐくみプランを利用し、本来２学級だったのが３学級になっています。その関係でクラス数が増えた分の２人の先生と 0.5 人の加配の先生に来てもらえています。
教員が増える効果としては、例えば英語の授業に免許を持った先生２人をあてることができます。２人の先生がいるので、状況によって２人で指導したり、基礎と応用に分けて習熟度に応じて指導したりすることが可能です。学級数が増えれば増えるほど、免許を持った先生が増えるので、そのような授業形態が可能になってきます。ある程度の学校の規模が確保できれば、少人数の単級よりも恵まれた授業を受けられる可能性が高まると思います。

（委員長）　単級の学級であれば教科教員は１人しか配置されないのですが、今のご意見のように、複数の教員が配置されれば、工夫によっていろんな授業の形態が組めるという利点があるということです。
資料３では水平統合した場合の学校規模が示されていますが、望ましい規模についてのご意見はありますでしょうか。例えば、学級の数、部活動の数、教員の配置数、子どもの人間関係の部分等の視点が考えられると思います。

（委　員）　県内をみると、甲府・甲斐・中央・笛吹は５学級以上の学校があります。そういう視点でみると、北杜も４～５学級の学校があっても全然おかしくないという気がしています。

（委員長）　資料３に書かれていますが、担当教科の教員配置という視点では、３～４学級以上が望ましいのかなと思います。
子どもたちを主に考えたとき、人間関係も含めて考えたときはどうでしょうか。

（委　員）　自分の中学校は４クラスあり、クラス替えもありました。今でも自分たちの地域の人と中学で出会った別の地域の人と交流が続いています。勉学もスポーツも同じ学級でやった方が良いと思います。なので、資料３真ん中の５クラスの規模が良いと思います。
地域の人に話を聞く機会がありました。在校生の保護者の意見ですが、学区はこだわらないが、早く決めてほしいとのことです。それよりも困っているのはスクールバスだそうです。部活後の迎えは親が行かなくてはいけないが、働いているのでできないため、普通下校と部活下校の２回、バスを出してほしいということを伺いました。下校時のバスさえなんとかしていただければ、統合には反対しないそうです。
現状を見ると、子ども達が可哀想です。将来の子どものことを思うのであれば、多少皆で我慢して、１年でも早く学校が仕上がれば、北杜に転入してくる人もいると思います。

（委　員）　子どもたちのことを考えるのであれば、先生の数を論点にするのではなく、暫定的に配置しておくことはできないのでしょうか。スタートラインから財政面のことばかりでは、子どもが可哀想だと思います。

（委員長）　教員の配置数は法律で、子どもの数ではなくて、学級の数で決まっているため、学校の規模と切り離せないところがあります。そのことはご理解いただきたいと思います。
水平統合の課題として、地域から学校の関係が切れてしまうのではないかというご意見がありますが、その点についてはいかがでしょうか。

（委　員）　現在、コミュニティスクールの中で、地域の方に地域の伝統や農業等を教えていただいていると思います。コミュニティスクールが言われる前から、地域の方とのつながりはあったと思いますが、コミュニティスクールの人材バンク的な面が活かされているところもあると思います。地域の皆さんが学校へ赴いていくようなことをカリキュラムに取り入れていけば、地域と学校のつながりを改めてつくっていくことができるのではと考え

ます。

（委員長）　統合することによって学区が広くなりますが、その中でまた地域と学校とのつながりをつくっていけば良いということですね。
旧町村の単位ではなく、北杜市の中学校を応援していくという意識につなげていくことも必要と感じています。

（４）水平統合を基本とした場合の通学距離イメージについて

（委員長）　事務局から説明がありました。ご意見等ありますでしょうか。

（委　員）　須玉町は、統合を早くから経験していて、反対・賛成もありましたが、決め手はスクールバスでした。そういうものにお金をかければよいと思います。
校数は、１校はきついと思います。少ない学級の子がいきなり集められるとパニックになってしまいます。通学距離も違いすぎます。お金はかかりますが、２～３校からはじめてほしいと思います。

（委　員）　高根中はスクールバスを導入しています。部活動に対応して、朝２便、放課後２便を運行しています。県境から来る生徒は７：00 くらいにバスに乗って７：30 の朝練に間に合うくらいの通学時間になっています。

（委　員）　地区に一人しかいない等、地域によって事情が違うため、バス停の作り方は十分に配慮してほしいです。

（委　員）　審議会のワークショップの結果として、水平統合よりも垂直統合を優先してほしいという地域もありました。その理由として、通学面の課題や地域性のつながりがあげられていました。２～３校の地図を見ると、通学に関してはスクールバスをしっかり導入していただければ、納得していただけるのではないでしょうか。
人数的なことを考えると、資料３の真ん中の２校が理想と思います。

（委員長）　全体を振りかえって、何かありますでしょうか。

（委　員）　昨年の審議会では、部活動は地域移行が進んでいくという話が出ていて、部活を理由に統合の方向性を決めるのは違うのではということで、部活をクローズアップして議論することはありませんでした。将来的には、そうなるとも思いつつ、そうはいっても部活動を学校から切り離すのは現実的に可能なのかということは、不明瞭でもあります。
そのようなことがあるので、今回の統合の話の中で、部活動を意思決定の大きな理由にすることはできないと思います。

（委員長）　文科省は、働き方改革の面から土日の部活動を地域に移行していこうと言っていて、平日についてはまだ方針が示されていません。当面のイメージとしては先程の合同部活動に近く、平日は学校で部活動をやり、土日どちらかを地域で合同活動をやるというような形になると思います。平日の部活動が主になりますので、やはり平日にどの部が成り立つかというのは大きいところかなと感じています。

（委　員）　地域移行について、一般の方でコーチや監督をできる方が学校に来て教えてくれるイメージでしたが、そのような認識で良いでしょうか。

（委員長）　地域移行の部活動は、学校から完全に切り離されます。イメージとすればスポ少の中学校版です。施設は、市の施設や学校の施設が考えられますが、学校も教員もノータッチが基本かと思います。

（委　員）　県のはぐくみプランがありますが、資料で出していただいた数字を見ると、余り意味がないのではとも感じました。県の施策をもっと意味のあるものにするために提言していくことができないかとも思いました。
部活や人間関係の面が理由で、他校に行ってしまう子が、自分の子の同級生にもいます。子ども達が、風通しの良い状態で過ごせる環境を１日も早く整えてほしいと思いました。

（委員長）　はぐくみプランについてフォローさせていただくと、資料３の統合３③において 74 名の学年があります。本来は２学級ですが、はぐくみプランが適用されて３学級となり、学級生徒数は 25 名となります。数の切れ目があるため、恩恵を受けられるところとそうではないところがありますが、決して意味のない施策ではないと思います。